

出生率が低下し、平均寿命が延びる中、中国における人口の高齢化は徐々に加速している。人口の急速に高齢化は、今後、必然的に、年金・医療・介護など、高齢者に対する社会保障支出を増加させ、また、15歳以上65歳未満の生産年齢人口の占める比率が減少しつつあることから、社会の生産性、ひいては、マクロの経済成長にマイナスの影響を与えるかもしれない。したがって、高齢者が心身ともに健康で、出来るだけ長く就労をはじめとする社会的・経済的な活動に参加することの出来る環境づくり持続可能な社会保障制度、労働市場における生産性の維持向上を目指す様々な政策にとって、中高齢者の健康状態に影響を与える可能性のある様々な要因と、その健康に対する影響の因果的なメカニズムを明らかにすることが必要である。

先行研究によれば、高齢者の精神的・身体的健康に影響を与える要因として、人口社会学的属性、社会経済学的属性、生活習慣、そして、世帯内外の物理的・金銭的・精神的サポートの有無などが指摘されている。こうした要因に加え、中国社会は、伝統的に儒学思想の影響を強く受け、未だに家族の絆が強く、「孫育て」という、中国独自の家族内での支え合いは無視出来ない重要な要因の1つである。そこで、本稿では、先行研究が得た結果を踏まえ、中国の中高年齢者を対象とした縦断調査である China Health and Retirement Longitudinal Survey (CHARLS)を用いて、「孫育て」が中高年齢者の健康に与える影響に対する実証分析を行った。具体的には、2011年と2013年のCHARLSを用い、内生性に対処するため、調査実施年と前年における、女性の労働市場への参加率(Female Labor Force Participation: FLFP)と女性の失業率(Female Unemployment Rate: FUR)の地域的なばらつきを操作変数とする、2段階最小二乗法(2SLS)とIVprobitによる分析を行った。「内生性検定」、「弱操作変数検定」、「過剰識別検定」を行った結果、「昨年 FLFP」が全ての検定をクリアしたことから、当該変数をIVとし、「低生活満足度指標」・「低心理的健康指標」・「低主観的健康観指標」・「身体機能制限有指標」を従属変数とする推定を行った。

分析の結果、「孫育て」は、中高年齢者の「主観的健康観」と「身体機能」を低下させる傾向があるのに対して、「生活満足度」と「心理的健康状態」については改善効果が認められた。この結果は、中高年齢者が、孫育てから精神的・心理的な満足を得ている一方で、身体的には負担となっている可能性のあることが示唆される。そうした悪影響を緩和するためには、政府による公的な支援もさることながら、地域における周囲の人々からの支援を促すような何らかの仕掛けを検討することが求められる。また、「人口社会学的属性」、「社会経済的属性」と「既存の健康指標」の結果から、更なる教育の普及、農村部の開発、中高年齢者に対する就職支援、家族による対面での交流の呼びかけなどが、中高年齢者の健康の改善に効果があることがわかった。